

## 「フィリピン研修 参加報告書」

京都大学文学部社会学専修 4回 浅井 飛鳥

フィリピン研修に先立って、前期の社会学の特殊講義の中で JFC (Japanese-Filippino-Children) への学習支援ボランティアを行った。このフィリピン研修の目的は、支援の対象であった彼らのルーツを知ることであった。この度の中で、彼らと彼らの親がどのような経緯で日本に来ることになったのか、どのようなことを経験して日本に来たのかについて様々なことを見聞きし、そして様々なことを感じ取り、考えた。最初に本研修のスケジュールについて概観したのち、とくに印象に残った経験とそれについて考えたことを書く。

## 全体のスケジュール

一日目は、数年前までエンターテイナーのプロモーターを行っていた雨笠さんに、日本とフィリピンの労働における関わり、技能実習制度の現状と問題点についてお話を聞いた。二日目は大学を訪問し、その後政府機関において移民する子供たちに対するセミナーに参加した。三日目には、別の大学に訪問。小学校、中学校併設であり、子供たちと様々な会話をした。福祉施設にも訪問し、孤児の養育、障害者支援、年配の方の介護の様子を見学した。四日目はアニメ学校と日本語学校を見学した。アニメ学校においては、日本のアニメ産業にフィリピンの産業がどのように関わっているかを学び、国際的な分業を目の当たりにすることができた。日本語学校においては、日本に来る彼らがどのような準備を経て来ているのかを知った。五日目は、フィリピンの JFC とその親の支援団体から話を聞いた。そして政府機関において、日本に来る予定の母親たちに向けたプレゼンテーションを行った。6日目に少し観光、7日目に帰国。これが今回の研修の概要である。

## 印象に残った経験と考えたこと

私が今回の研修の中で印象に残っているのは

- ・日本語学校
- ・移民する子供達へのセミナー
- ・子供達の母親に対するプレゼンテーション

である。これらを中心に振り返ろうと思う。

- ・日本語学校

日本語学校は日本に派遣することが決まった技能実習生に日本語を習得させるための学校である。ここでは軍隊風のスパルタ教育が行われていた。1日10時間以上の日本語学習に加え、大声での挨拶、日本的な行動様式の強制、といった日本の文化に適応するための指導も行われていた。(実際の日本の姿とかけ離れている部分も多かったが、これが日本だ、と彼らは教え込まれていた。) これは、4ヶ月という短い期間で日本の実習先に適応できる能力をつけるためであった。

このような厳しい訓練を受けた人々が、日本の労働市場に入り、産業を支えている。それにもかかわらず、彼らは日本の労働市場において、使い潰される脆い存在である。しかし、日本人はこのようなことをつゆ知らず、外国人排斥の動きを起こしたりする。

自分にできることは限られているが、周囲に今回の研修で見聞きしたことを伝えることが、自分の

すべきことだと感じた。

・移民する子供達（留学、家族滞在）に対するセミナー

このセミナーには10歳くらいの子から18歳くらいの子が20名強参加していた。最初に、移民した子供達がどのように苦労したかに関するビデオを見た。その後、自己紹介ゲームを行った。最後に、移民時の心得についてセミナーが行なわれた。

このセミナーに参加して気づいたことは子供達が移民前に得られる、移民先の国の情報がほとんどないということである。渡航する国もバラバラであり、個別で対応できないのだろう。

さらに、話を聞く中で彼らは親の都合で移民する子達が多く、往々にして移民に対して複雑な気持ちを持っていることがわかった。つまり、移民に対してそもそも複雑な気持ちを持っている上に、移民先の国の情報を全く知らない状態で彼らは移民しているのである。我々が日本において支援している子供達がどんなに大変な思いをしているか分かった。

・移民する子供達の母親に対して行ったプレゼンテーションについて

我々は移民する子供達の母親に対して、日本について知ってもらうためのプレゼンテーションを行った。テーマは各々の関心のあることに定め、日本でパワーポイントの準備、現地で発表練習という形で進んだ。

私は日本とフィリピンの学校生活の違いというテーマを定めたのだが、日本で調べたこと、話を聞いたことと、現地で見聞きしたことの間にギャップが多く、内容の修正を迫られた。

量的なデータを比べても実態を把握できるわけではない。また、日本の新聞記事や本から、他国の実態について全てを把握できるわけではない。当たり前かもしれないが、そのことに気づき、自分の研究対象とするフィールドを自分の目で見ることの大切さを痛感した。

今回の研修で様々なことを学び、決意をした。今回の研修で知ったことをできる限り周りの人に伝えること。そして、学習支援ボランティアにおいて子供達との関わり方に活かすこと。自分の研究において、自分の目でフィールドを見ること。これらを大事に残り少ない学生を大切に過ごしたい。